

COSMETIC

特許公報番号 JP9030931 (A)
公報発行日 1997-02-04
発明者: OTSUKI SHINICHI; KARAKIDA FUMIHIKO; KAWASAKI YOSHIMI; AKIYAMA YOSHIHIKO
出願人 TSUMURA & CO
分類:
一国際: A61KB/96; A61KB/00; A61KB/97; A61Q1/00; A61Q1/04; A61Q19/00; A61K8/96;
A61K8/00; A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q19/00; (IPC1-7): A61K7/00; A61K7/025;
A61K7/48
一欧州:
出願番号 JP19950208505 19950725
優先権主登録番号: JP19950208505 19950725

要約 JP 9030931 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a cosmetic having excellent improvement of skin roughening.
SOLUTION: The extracts of Chinese herbs, Coptidis rhizoma, Phellodendri cortex, Scutellariae radix and Gardeniae fructus are formulated and they are additionally combined with at least one member selected from the extracts of Chinese herbs, Angelicae radix, Cnidii rhizoma, Paeoniae radix, Rhamnnaiae radix, Forsythiae fructus, Schizonepetae herba, Coicis semen, Bupleuri radix and Glychirrhizae radix. The cosmetic formulated with these extracts is excellent in emollient action of skin roughening.

esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-30931

(43)公開日 平成9年(1997)2月4日

(51)Int.Cl.⁶

A 61 K 7/00
7/025
7/48

識別記号 庁内整理番号

F I
A 61 K 7/00
7/025
7/48

技術表示箇所

K

審査請求 未請求 請求項の数2 FD (全9頁)

(21)出願番号

特願平7-208505

(22)出願日

平成7年(1995)7月25日

(71)出願人 000003665

株式会社ツムラ
東京都中央区日本橋3丁目4番10号

(72)発明者 大槻 慎一

静岡県藤枝市築地392番地 株式会社ツムラ内

(72)発明者 唐木田 文仁

静岡県藤枝市築地392番地 株式会社ツムラ内

(72)発明者 川崎 義巳

静岡県藤枝市築地392番地 株式会社ツムラ内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 化粧料

(57)【要約】

【課題】 本発明は、優れた肌あれ改善効果を有する化粧料を提供することを課題とする。

【解決手段】 本発明は、オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシの生薬抽出物を配合し、さらには前記成分と共にトウキ、センキュウ、シャクヤク、ジオウ、レンギョウ、ケイガイ、ヨクイニン、サイコ、カンゾウから選ばれる生薬抽出物を一種又は二種以上を配合することを特徴とし、これらを配合した化粧料が皮膚の肌あれ改善効果に優れていることを見い出した。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシの生薬抽出物を必須成分として配合することを特徴とする化粧料。

【請求項2】 オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシの生薬抽出物を必須成分として配合し、さらにトウキ、センキュウ、シャクヤク、ジオウ、レンギョウ、ケイガイ、ヨクイニン、サイコ、カンゾウの生薬抽出物の群から選ばれる一種又は二種以上を配合した請求項1記載の化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、優れた肌あれ改善効果を有する化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来より、種々の肌あれ改善効果を有する成分を配合した化粧料が開発されている。その中で化粧料に配合する成分として、生薬抽出物は天然物であり作用が温和で安全性が高いことから、配合成分として好みといえられ様々な試みがなされている(フレグラス ジャーナル1993年7月号(P46-52)、特開平3-127714、特開平3-275609、特開平4-247008、特開平5-331040、特公平6-37377、特公平6-99268等)。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明に関連する生薬について一般的に知られている効果を述べると、オウレン、オウバクはベルベリン系アルカロイドを含み、抗菌作用、抗炎症作用を有する。オウゴンは、フラボン配糖体、バイカルソニンやアミノ酸を含み、抗アレルギー作用、抗炎症作用を有する。サンシシは、イリドイド配糖体やカロチノイド類を含み、抗炎症作用等を有する。トウキ及びセンキュウは、精油やクマリン配糖体、糖類を含み、抗炎症作用、鎮静作用を有する。シャクヤクは、タンニン類を多く含み、收敛作用、抗炎症作用を有する。ジオウは、糖類やイリドイド配糖体を含み、保湿作用を有する。レンギョウは、リグナン類を含み、抗炎症作用、排膿作用を有する。ケイガイは、精油を多く含み、抗炎症作用と穏やかな皮膚刺激作用を有する。ヨクイニンは、タンパク質、脂肪油、フィトステロール類を含み排膿作用、皮膚の保護作用を有する。サイコは、サイコサポニン類、フィトステロール類、脂肪油を含み、抗炎症作用、鎮静作用を有する。カンゾウは、グリチルリチン酸やフラボン類を含み、抗炎症作用、緩和作用を有する。

【0004】 すでに、これらの効果を利用して化粧料等に配合することは知られているが、これらの単独配合では、その期待される効果が十分に発揮されず、満足すべきものに至っていない。またこれらの生薬の相乗作用効果について現状は十分に検討はされてはいない。

【0005】 さらに、肌あれ改善に対して、従来から使

用されている化粧料では、肌あれ改善に対して十分な効果を発揮出来ず、より優れた肌あれ改善効果を有する化粧料の開発が望まれていた。

【0006】

【課題を解決するための手段】かかる実情において、本発明者らは、優れた肌あれ改善効果を有する化粧料を開発すべく鋭意研究を重ねた結果、オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシの生薬抽出物を配合し、さらには前記成分と共にトウキ、センキュウ、シャクヤク、ジオウ、レンギョウ、ケイガイ、ヨクイニン、サイコ、カンゾウから選ばれる生薬抽出物を配合することでなお一層効果的となり、これらを配合した化粧料は皮膚の肌あれ改善効果に優れ、しかも安全性、安定性に優れていることを見い出し本発明を完成するに至った。

【0007】 すなわち、本発明は、以下のとおりである。

(1)オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシの生薬抽出物を必須成分として配合することを特徴とする化粧料。

20 (2)オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシの生薬抽出物を必須成分として配合し、さらにトウキ、センキュウ、シャクヤク、ジオウ、レンギョウ、ケイガイ、ヨクイニン、サイコ、カンゾウの生薬抽出物の群から選ばれる一種又は二種以上を配合した(1)記載の化粧料。

以下(1)及び(2)記載の化粧料を本発明の化粧料という。

【0008】 以下、本発明を詳細に説明する。本発明の化粧料に用いるオウレン、オウバク、オウゴン、サンシシ、トウキ、センキュウ、シャクヤク、ジオウ、レンギョウ、ケイガイ、ヨクイニン、サイコ及びカンゾウから得られる生薬抽出物(以下「生薬抽出物」と略称する。)の調製法は特に限定はない。しかし、生薬を抽出するための好ましい方法としては、まず上記生薬を適度に切断又は粉碎したものを、単独又は二種以上混合したものと種々の適当な溶媒を用い、室温～加温下で抽出する方法が挙げられ、これに用いられる抽出溶媒としては、水;メチルアルコール、エチルアルコール等の低級アルコール(含水も含む);グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール等の多価アルコール;酢酸エチル等の低級アルキルエステル;ベンゼン、ヘキサン等の炭化水素;ジエチルエーテル等のエーテル類等が例示され、その一種または二種以上を用いることができる。これらのうち、水又は水溶性溶媒、特に水、エチルアルコール、グリセリン、1,3-ブチレングリコールの一種又は二種以上の混合溶媒を用いることが好ましい。また抽出条件としては、生薬に対し上述の抽出溶媒を約2～150倍量、好ましくは5～30倍量加え、室温又は加温して数時間から数日間、特に室温ならば1日以上、加温ならば1時間以上適度に攪拌しながら抽出するのが好ましい。なお、溶媒の投入方法や抽出時間、抽出温度等は、抽出する生薬に合わせて設定する。

【0009】以上のような条件で得られる生薬抽出物は、抽出された溶液のまま本発明の化粧料に配合しても良いが、この抽出液を濃縮、濾過等の処理を施したものを使い分けて配合することもできる。また、生薬抽出物の安定性を増すために、必要に応じて防腐剤やpH調整剤等を適量加えても問題ない。

【0010】生薬の抽出方法は前述の方法にこだわることなく、それぞれの生薬に適した抽出法で行う事が出来る。抽出法の例としては、パーコレーション法、循環抽出法、超臨界抽出法等があげられる。また、抽出物を一度濃縮して特定の溶媒に溶解したものや液体クロマトグラフ法等により適当なカラムで分離して溶出させたものも使い配合することもできる。

【0011】本発明の化粧料において、生薬抽出物の配合量は、乾燥固形分に換算して全量100.0%に対し0.001~20.0重量%程度とすることが好ましく、特に0.004~1.0重量%の範囲が好ましい。生薬抽出物の配合量が0.001重量%未満であると効果が十分に発揮されず、また、配合量が20.0重量%を越えると効果はほぼ一定となる。

【0012】本発明の化粧料は前記必須成分としての生薬抽出物の他、本発明の効果を損なわない範囲内で通常化粧品、医薬部外品、医薬品等に一般に用いられる各種成分、すなわち、界面活性剤、エモリエント剤、保湿剤、増粘剤、防腐剤、酸化防止剤、安定剤、香料、色素等を必要に応じて適宜配合することにより調製される。

【0013】本発明の生薬抽出物の調製法の具体例を以下に示す。

具体例1

オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシの切断品又は粉碎品を各々10gビーカーに取り、1,3-ブチレングリコール及びエタノール(95.0%)を各々のビーカーに100g入れ、室温(約23°C)において攪拌機(東京理科器機(株)製)を使い約72時間時々攪拌しながら浸漬抽出した。それをろ紙(東洋瀘紙(株)製、No.2)にて濾過することにより各抽出物(1,3-ブチレングリコール抽出物、エタノール抽出物)を得た。

【0014】具体例2

オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシ、トウキ、センキュウ、シャクヤク、ジオウ、レンギョウ、ケイガイ、ヨクイニン、サイコ、カンゾウの切断品又は粉碎品を、各々又は混合したもの10部に対して、エタノール/精製水(5:5)の混合溶媒100部を加えて、室温(約23°C)において約72時間時々攪拌しながら浸漬抽出し、抽出後ろ紙(No.2)にて濾過することにより抽出物を得た。

【0015】具体例3

オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシ、トウキ、センキュウ、シャクヤク、ジオウ、レンギョウ、ケイガイ、ヨクイニン、サイコ、カンゾウの切断品又は粉碎品

を、各々又は混合したもの10部に対して、1,3-ブチレングリコール/精製水(5:5)の混合溶媒100部を加えて、室温(約23°C)において約72時間時々攪拌しながら浸漬抽出し、抽出後ろ紙(No.2)にて濾過することにより抽出物を得た。

【0016】具体例4

オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシ、トウキ、センキュウ、シャクヤク、ジオウ、レンギョウ、ケイガイ、ヨクイニン、サイコ、カンゾウの切断品又は粉碎品を、各々又は混合したもの10部に対して、エタノール/1,3-ブチレングリコール(5:5)の混合溶媒100部を加えて、室温(約23°C)において約72時間時々攪拌しながら浸漬抽出し、抽出後ろ紙(No.2)にて濾過することにより抽出物を得た。

【0017】具体例5

オウレン、オウバク、オウゴン、サンシシ、トウキ、センキュウ、シャクヤク、ジオウ、レンギョウ、ケイガイ、ヨクイニン、サイコ、カンゾウの切断品又は粉碎品を、各々又は混合したもの10部に対して、プロピレングリコール100部を加えて、室温(約23°C)において約72時間時々攪拌しながら浸漬抽出し、抽出後ろ紙(No.2)にて濾過することにより抽出物を得た。

【0018】

【発明の実施の形態】本発明の化粧料の実施の形態は特に限定されず、化粧水等の可溶化製品、乳液やクリーム等の乳化製品、パック等の分散製品、口紅やファンデーション等のメイクアップ製品、頭髪製品、浴用製品等の通常化粧料に用いられている形態とすることができる。

【0019】

【実施例】以下、試験例及び実施例を挙げて本発明を更に詳細に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。なお、以下の表中の配合量は重量%で表し全量は100.0%である。

【0020】試験例1試料の作成

白色ワセリン(日本薬局方収載品)を99gビーカーに取り、具体例1で得たオウレン、オウゴン、オウバク、サンシシの1,3-ブチレングリコール抽出物及びエタノール抽出物を1gずつ秤取し、各々のビーカーに入れ混合して試料を得た。別に各抽出物を0.25gずつ秤取し、混合して、合計1gとし同様に白色ワセリンと混合して試料とした。

【0021】〔改善効果の評価〕各々の試料を5名の肌あれを起こしている女性(30~50歳代)に1週間使用してもらいその改善効果について評価した。改善効果の良い順から5点、4点、3点、2点、1点として、その合計点より判定した。その結果を表1(1,3-ブチレングリコール抽出)及び表2(エタノール抽出)に示す。

【0022】表1 1,3-ブチレングリコール抽出物

5

6

被験者	オウレン	オウゴン	オウバク	サンシシ	4種混合
H.K	2	4	3	1	5
M.M	2	3	4	1	5
T.Y	1	4	3	2	5
K.N	1	3	4	2	5
A.S	4	3	2	1	5
計	10	17	16	7	25

【0023】表2 エタノール抽出物

10

被験者	オウレン	オウゴン	オウバク	サンシシ	4種混合
H.K	4	3	2	1	5
M.M	2	3	4	1	5
T.Y	3	4	2	1	5
K.N	1	2	4	3	5
A.S	1	3	4	2	5
計	11	15	12	8	25

表1、表2から抽出溶媒に関係なく4種類の抽出物を混合して配合したものが、各々の抽出物を単独に配合したものより効果があることがわかる。

【0024】実施例1 化粧水(化粧水の実施例と比較例を表3に示す)

(製法)化粧水は、精製水にグリセリン、1,3-ブチレングリコール、

*リコール、クエン酸、クエン酸ナトリウムを加え均一に溶解する。別にエタノールにポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、香料を加え、均一に溶解した後、前述の精製水溶液を加えて具体例2で得た生薬抽出物を加えて可溶化し、ろ過をして得た。

【0025】表3

成分名	実施例①	実施例②	比較例
(1)グリセリン	3.0	3.0	3.0
(2)1,3-ブチレングリコール	4.0	4.0	4.0
(3)エタノール	5.0	5.0	5.0
(4)ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	0.5	0.5	0.5
(5)パラオキシ安息香酸メチル	0.1	0.1	0.1
(6)クエン酸	0.01	0.01	0.01
(7)クエン酸ナトリウム	0.08	0.08	0.08
(8)香料	0.03	0.03	0.03
(9)オウレン抽出物	0.01		
(10)オウバク抽出物	0.01		
(11)オウゴン抽出物	0.01		
(12)サンシシ抽出物	0.01		
(13)オウレン・オウバク・オウゴン・サンシシ混合抽出物		0.04	
(14)精製水	残量	残量	残量
全量	100.0	100.0	100.0

【0026】実施例2 クリーム(クリームの実施例と比較例を表4に示す)

(製法)クリームは、精製水に1,3-ブチレングリコール、グリセリンを加え、加熱溶解して75°Cに保つ。ステアリン酸、セタノール、スクワラン、ミツロウ、還元ラノリン、ポリオキシエチレンセチルエーテル、親油型モノ

ステアリン酸グリセリン、パラオキシ安息香酸エチルを加熱溶解して、75°Cに保ち前述の精製水溶液を加えて、ホモミキサーで乳化する。これを攪拌しながら40°Cまで冷却し具体例3で得た生薬抽出物を加え室温まで冷却して得た。

【0027】表4

成分名	実施例	比較例
(1)ステアリン酸	1.0	1.0
(2)セタノール	3.0	3.0
(3)スクワラン	30.0	30.0
(4)ミツロウ	0.03	0.03
(5)還元テノリン	3.0	3.0
(6)ポリオキシエチレンセチルエーテル	2.0	2.0
(7)親油型モノステアリン酸グリセリン	1.0	1.0
(8)1,3-ブチレングリコール	2.0	2.0
(9)グリセリン	4.0	4.0
(10)パラオキシ安息香酸エチル	0.3	0.3
(11)オウレン抽出物	1.0	
(12)オウバク抽出物	1.0	
(13)オウゴン抽出物	1.0	
(14)サンシシ抽出物	1.0	
(15)精製水	残量	残量
全量	100.0	100.0

【0028】実施例3 乳液(乳液の実施例と比較例を表5に示す)

(製法)乳液は、精製水にカルボキシビニルポリマーを加え分散させたのち、プロピレングリコール、パラオキシ安息香酸メチル、水酸化カリウムを加えて加熱し、75°Cに保つ。ステアリン酸、ステアリルアルコール、ワセリン、スクワラン、ポリオキシエチレンモノオレイン酸*

20*エステル、ポリオキシエチレンオレイルエーテルを加熱溶解し、75°Cに保ち前述の精製水溶液を加えて、ホモミキサーで乳化する。これを攪拌しながら40°Cまで冷却し、具体例4で得られた生薬抽出物を加え、室温まで冷却する。

【0029】表5

成分名	実施例	比較例
(1)ステアリン酸	1.5	1.5
(2)ステアリルアルコール	1.0	1.0
(3)ワセリン	2.0	2.0
(4)還元テノリン	1.0	1.0
(5)スクワラン	3.0	3.0
(6)ポリオキシエチレンモノオレイン酸エステル	1.5	1.5
(7)ポリオキシエチレンオレイルエーテル	1.0	1.0
(8)プロピレングリコール	5.0	5.0
(9)カルボキシビニルポリマー	0.2	0.2
(10)水酸化カリウム	0.08	0.08
(11)パラオキシ安息香酸メチル	0.3	0.3
(12)オウレン抽出物	0.5	
(13)オウバク抽出物	0.5	
(14)オウゴン抽出物	0.5	
(15)サンシシ抽出物	0.5	
(16)精製水	残量	残量
全量	100.0	100.0

【0030】実施例4 リップクリーム(リップクリームの実施例と比較例を表6に示す)

(製法)リップクリームは、生薬抽出物と香料を除いた成

分を均一に加熱溶解し均一にする。香料及び具体例5で得た生薬抽出物を加え脱泡し、50°Cまで冷却し、型に入れてスティック状にする。

【0031】表6

成分名	実施例	比較例
(1)セレシン	10.0	10.0
(2)固形パラフィン	5.0	5.0
(3)トリオクタン酸グリセリン	20.0	20.0
(4)リンゴ酸ジイソステアリル	40.0	40.0
(5)ミリスチン酸オクチルドデシル	10.0	10.0
(6)オウレン抽出物	0.001	
(7)オウバク抽出物	0.001	
(8)オウゴン抽出物	0.001	
(9)サンシシ抽出物	0.001	
(10)香料	0.2	0.2
(11)ビマシ油	残量	残量
全量	100.0	100.0

【0032】〔改善効果の評価〕実施例及び比較例で作った化粧水、クリーム、乳液を肌あれを感じている男女10名に約2週間顔の頬に使用して貰い、その改善効果を比較した。評価方法は、使用前と2週間使用後の状態に

*についてどの様に感じたか、被験者が表7に示すとおり評価しその評点により判断した。なお、評価結果は表8に示す。

【0033】表7

評点	評価	内容
1	改善されなかった	肌あれ
2	あまり改善されなかった	
3	少し改善された	
4	改善された	
5	非常に改善された	美しい肌

【0034】表8

	実施例①	実施例②	比較例
化粧水	3.1	3.4	1.1
クリーム	3.6	—	2.3
乳液	3.3	—	2.0

(n = 10 の平均を示す)

表8より、本発明の化粧料は、生薬抽出物を配合してい

ない化粧料と比較して顕著な肌荒れ改善効果を認めた。又、口唇荒れの人リップクリームを使用して貰った結果、同様の改善効果を得た。

【0035】実施例5 化粧水(化粧水の実施例と比較例を表9に示す)

(製法)実施例1記載の化粧水と同様。

【0036】表9

成分名	実施例						比較例
	①	②	③	④	⑤		
(1)グリセリン	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
(2)1,3-ブチレングリコール	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
(3)エタノール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	
(4)ポリオキシエチレン硬化ビマシ油	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
(5)パラオキシ安息香酸メチル	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
(6)クエン酸	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	
(7)クエン酸ナトリウム	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	
(8)香料	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	
(9)オウレン抽出物	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02		
(10)オバク抽出物	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02		
(11)オウゴン抽出物	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03		
(12)サンシシ抽出物	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02		
(13)トウキ抽出物	0.01				0.04		
(14)ジオウ抽出物		0.01			0.04		
(15)シャクヤク抽出物			0.01		0.03		
(16)ゼンキュウ抽出物				0.01	0.03		
(17)精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	
全量	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

【0037】実施例6 クリーム(クリームの実施例と比較例を表10に示す) * (製法)実施例2記載のクリームと同様。

*20 【0038】表10

成分名	実施例						比較例
	①	②	③	④	⑤	⑥	
(1)ステアリン酸	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(2)セタノール	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
(3)スクワラン	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0
(4)ミツロウ	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
(5)還元グリシン	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
(6)ポリオキシエチレンセチルエーテル	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
(7)親油型モノステアリン酸グリセリン	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(8)1,3-ブチレングリコール	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
(9)グリセリン	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
(10)パラオキシ安息香酸エチル	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
(11)オウレン抽出物	1.0	1.0	1.0		1.0	2.0	
(12)オバク抽出物	1.0	1.0	1.0		1.0	3.0	
(13)オウゴン抽出物	1.0	1.0	1.0		1.0	2.0	
(14)サンシシ抽出物	1.0	1.0	1.0		1.0	1.0	
(15)レンギョウ抽出物	1.0				1.0	3.0	
(16)ケイガイ抽出物			1.0		1.0	1.0	
(17)ヨクイニン抽出物				1.0	1.0	3.0	
(18)オウレン・オバク・サンシシ・オウゴン・レンギョウ・ケイガイ・ヨクイニン混合抽出物				4.0			
(19)精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	
全量	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

【0039】実施例7 乳液(乳液の実施例と比較例を表11に示す)

(製法)実施例3記載の乳液と同様。

【0040】表11

成分名	実施例 ①	実施例 ②	実施例 ③	実施例 ④	比較例
(1)ステアリン酸	1.510	1.5	1.5	1.5	1.5
(2)ステアリルアルコール	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(3)ワセリン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
(4)還元テノリン	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(5)スクワラン	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
(6)ポリオキシエチレンモノオレイン酸エステル	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
(7)ポリオキシエチレンオレイルエーテル	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
(8)アロピレングリコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
(9)カルボキシビニルポリマー	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
(10)水酸化カリウム	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08
(11)マラオキシ安息香酸メチル	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
(12)オウレン抽出物	0.5	0.5	0.5	0.5	
(13)オウバク抽出物	0.5	0.5	0.5	0.5	
(14)オウゴン抽出物	0.5	0.5	0.5	0.5	
(15)サンシシ抽出物	0.6	0.6	0.6	0.6	
(16)サイコ抽出物	0.5			0.5	
(17)カンゾウ抽出物		0.5		0.5	
(18)サイコ・カンゾウ混合抽出物			1.0		
(19)精製水	残量	残量	残量	残量	残量
全量	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

【0041】実施例8 リップクリーム(リップクリーム * (製法)実施例4記載のリップクリームと同様。
の実施例と比較例を表12に示す) * 【0042】表12

成分名	実施例 ①	実施例 ②	実施例 ③	比較例
(1)セレシン	10.0	10.0	10.0	10.0
(2)固体パラフィン	5.0	5.0	5.0	5.0
(3)トリオクタン酸ブリセリン	20.0	20.0	20.0	20.0
(4)リンゴ酸ジイソステアリル	40.0	40.0	40.0	40.0
(5)ミリスチン酸オクチルドデシル	10.0	10.0	10.0	10.0
(6)オウレン抽出物	0.001	0.001	0.001	
(7)オウバク抽出物	0.001	0.001	0.001	
(8)オウゴン抽出物	0.001	0.001	0.001	
(9)サンシシ抽出物	0.001	0.001	0.001	
(10)ジオウ抽出物	0.001			
(11)シャクヤク抽出物		0.001		
(12)サイコ抽出物			0.001	
(13)カンゾウ抽出物			0.001	
(14)香料	0.2	0.2	0.2	0.2
(15)ヒマシ油	残量	残量	残量	残量
全量				

【0043】〔改善効果の評価〕前述の評価方法及び評点と同じ。評価結果を表13に示す。 * 【0044】表13

	実施例 ①	実施例 ②	実施例 ③	実施例 ④	実施例 ⑤	実施例 ⑥	比較例
化粧水	3.6	3.6	3.7	3.8	4.0	—	1.1
クリーム	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.4	2.3
乳液	3.7	3.9	3.9	4.3	—	—	2.0

(n = 18 の平均を示す)

表13より、本発明の化粧料は、生薬抽出物を配合していない化粧料と比較して顕著な肌荒れ改善効果を認めた。又、口唇荒れの人にリップクリームを使用して貰った結果、同様の改善効果を得た。

【0045】

【発明の効果】本発明の化粧料はオウレン、オウバク、オウゴン、サンシシの生薬抽出物を必須成分として配合した化粧料で、さらに前記成分と共にトウキ、センキュ*

*ウ、シャクヤク、ジオウ、レンギョウ、ケイガイ、ヨクイニン、サイコ、カンゾウから選ばれる生薬抽出物を配合することでなお一層効果的となり、皮膚の肌あれ改善効果に優れ、しかも安全性、安定性に優れている。

フロントページの続き

(72)発明者 秋山 喜彦

静岡県藤枝市築地392番地 株式会社ツム

ラ内